自主防災組織活動事例集

平成24年3月

山形県生活環境部 危機管理・くらし安心局危機管理課

【目次】

〇自主防災組織等活動事例

小荷駄町一区防災会(山形市)	• • • • 1
島区自主防災会(寒河江市)	3
原町自主防災会(天童市)	• • • • 5
中沢地区自主防災会(村山市)	8
柏原区防災会(東根市)	• • • • 10
若葉町自主防災会(尾花沢市)	• • • • 12
近江地区自主防災会 (山辺町)	• • • • 14
土橋地区自主防災会(中山町)	• • • • 16
下工北町内会自主防災会(河北町)	• • • • 18
本道寺地区自衛防災隊(西川町)	• • • • 21
前田沢自主防災会(朝日町)	• • • • 23
第九区自主防災会(大江町)	• • • • 25
坂ノ上地区自主防災会(大石田町)	• • • • 27
川西町自主防災会(新庄市)	29
谷口地区婦人防火協力班(金山町)	• • • • 31
向町地区自主防災会(最上町)	• • • • 33
木友地区自主防災組織「さくら会」(舟形町)	• • • • 35
宮沢自主防災組織(真室川町)	• • • • 37
沼の台地区自主防災会(大蔵村)	39
新道地区自主防災組織(鮭川村)	41
蔵岡地区自主防災会(戸沢村)	• • • • 43
八木橋町内会自主防災組織(米沢市)	• • • • 45
館町南地区自主防災会(長井市)	47
地区高齢者福祉(福祉ネットワーク)と自主防災の会(南陽市)	49
下町自主防災会(高畠町)	• • • • 51
東沢地区自主防災会(川西町)	• • • • 53
白沼地区自主防災組織(小国町)	• • • • 55
貝生地区自主防災会(白鷹町)	• • • • 57
中ノ目南部落自主防災会(飯豊町)	· · · · 59
大山地区自主防災会議(鶴岡市)	• • • • 61
横道町自主防災会(酒田市)	• • • • 63
緑町自主防災会(庄内町)	65
青山自主防災会(三川町)	• • • • 67
上藤崎自主防災会(遊佐町)	• • • • 69
○資 料	
1 自主防災組織整備に対する支援事業の概要	• • • • 71
2 自主防災リーダー研修会の実施状況	72

小荷駄町-区防災会(山形市)

1 組織の概要

【所 在 地】

山形市 小荷駄町一区

【設立年月日】

平成19年11月16日

【人口/世帯数】

人口358人/世帯数116世帯

【地域の特色】

小荷駄町一区は山形市のほぼ中央に位置し,一般住宅や共同住宅が建ち並ぶ住宅街であり,市が指定する一時避難場所の小荷駄町公園,収容避難所の南部公民館や南部体育館に隣接している。

高齢者の占める割合が年々多くなっているが、地区では、100年程の伝統を持つ夏祭り「七夕行列」や、各種学習会の開催、公園清掃など様々な事業に積極的に取り組んでいる。

2 設立の経緯

町内会を中心とし、災害発生時の単身高齢者対策として福祉マップの作成を手掛けていた際、町内全体の防災体制を整備すべきとの声が高まるとともに、市の自主防災会設立を推進する呼びかけなどもあり、同自主防災会の設立へと発展したものである。

設立にあたっては、30人程の代表者による準備委員会を立ち上げ、実 行性のある自主防災会づくりを目指し、約1年間、月1回程度の協議を重 ね、規約や防災計画の案づくりを中心とした綿密な準備が行われた。

3 主な活動内容

(1) 防災広報の発行

防災広報「防災だより」を定期的に発行し、自主防災会の事業内容のほか、 訓練の様子や保有する資器材、防災に関するアンケート結果による住民の声な どを分かりやすく紹介し、地区内の防災意識の啓発ならびに各種事業への参加 を呼び掛けている。

(2) 防災マップの作成

自主防災会独自で電子データ化した防災マップを作成しており,一時避難場所,収容避難所,防災倉庫や消火器の設置場所,各組の区域や集結場所等が一目で分かる内容にまとめ住民へ配布している。

(3) 防災訓練の実施

自主防災会が主催する防災訓練を定期的に実施しており、消防署の指導による初期消火訓練や普通救命救急講習など開催毎に重点項目を設け、住民の防災知識や技術の習得に努めている。

また,避難誘導訓練やリヤカーを利用したケガ人の搬送訓練,天ぷらなべ火 災の実験など独自の項目を組み合せ,より身近で実践的な訓練の推進を図りな がら住民が参加しやすい環境づくりを心掛けている。

4 特徴的な取り組み

「わが町を探検し防災拠点を知ろう」

東日本大震災の経験や防災アンケートによる「こどもと一緒に防災を学びたい」との意見を踏まえ、平成23年7月に、自主防災会と同町内こども会育成部との協同事業として防災をテーマにした町内探検を実施した。

具体的には、こども、保護者及び防災会役員で探検隊を結成し、自主防災会が作成した防災マップをもとに、町内の危険個所のほか、災害時の集結場所や 避難場所、防災倉庫などの防災拠点を探検しながら学ぶ取り組みである。

参加したこども達や保護者からは、防災の視点から自分達の住む町を再確認できる体験として好評を得るとともに、次の世代を担うこども達へ地域防災の大切さを伝える好機となった。



た、より積極的なアプローチが求められている。



5 今後の取り組み予定

東日本大震災の経験から、特に災害発生時における安否確認を含めた避難誘導を重視しており、今年度、居住者情報に精通する町内会各組の代表役員を避難誘導部に加え体制を強化している。今後は、継続的な避難誘導訓練の実施と検証を行うことにより更なる体制の強化を図るとともに、避難誘導などに必要となる資器材の充実、さらには収容避難所との連携に取組んでいく予定である。課題点としては訓練への参加者確保があげられ、高齢者やこれまで参加したことのない方からも多くの参加を得られるよう、隣近所での声掛けを中心とし

また,町内の少子高齢化が進んでおり,将来的に高齢者割合の増加が見込まれる中,災害時に活躍が期待される世代の人員不足が懸念されている。

島区自主防災会 (寒河江市)

1 組織の概要

【所 在 地】

寒河江市大字島 50 番地の 4

【設立年月日】

平成18年 月 日

【人口/世帯数】

人口 1,274 人/世帯数 388 世帯

【地域の特色】

島地区は寒河江市の市街地から南に位置し、中山町との境界には最上川が流れています。地区内には寒河江市民浴場があり、また、近くには山形県ふるさと総合公園があり、花咲かフェアの開催時期をはじめ、県内外から多くの方が訪れます。

2 設立の経緯

地区とは最上川が隣接しており、また山形盆地断層帯があることから、 地区の方の防災に対する関心が高く、地域防災力の向上を目指して自主 防災会が結成された。

3 主な活動内容

防災、減災に対する関心が高く、避難訓練に始まり、炊出し訓練等、 毎年訓練を行っている。

「災害図上訓練 DIG を実施」

今年度は、地域の危険個所や避難経路の見直し等を行うため災害図上訓練を 行った。寒河江市でも初めての訓練だったので、災害図上訓練指導員の花輪先

生に指導していただきました。

地区を数ケ所に分け、それぞれ住民が危険個所等の洗い出しを行い、何度も会合を繰り返しコミニュケーションを深めながら手作りの防災地図を作りあげました。



5 今後の取り組み予定

今回作成した手作りの防災地図を印刷して、地区内全戸に配布していく予定です。

原町自主防災会(天童市)

1. 組織の概要

【所 在 地】 天童市大字原町甲37

【設立年月日】 平成16年8月8日

【人口/世帯数】 人口692人/世帯数200世帯

【地域の特色】

原町集落は干布地区の中心部から西に位置し、集落内には天童堰(山寺堰)が流れている。集中豪雨や冬のザエ(用水路に雪が詰まる様)による流水が、用水路から溢れ県道に流れる洪水などが年中行事の様に起きる。この冬場の「ザエ突き」は、昔から町内会・消防団・青年団など集落上げて行って来ている。そのため防災意識は高く、また地域の連帯感も強い。集落内にモンテデイオ山形のホームスタジアムもあり、「干布モンテ応援隊」にも大勢参加し活動の中核となっている。

2. 設立の経緯

干布地区では3番目で平成16年8月に自主防災会を結成。役員は、町内会 (正副会長・会計・庶務、情報部ほか)、消防団OB(副会長・消火部)、安 協(避難誘導部)、婦人会(給食給水部)、隣組長(避難誘導班長)などで構 成している。翌17年10月30日に全戸参加の大規模な総合防災訓練を実施。 翌年、防災力の向上を目指し、隣組を更にさらに細分化し「向う3軒両隣 グループ(58)」を編成し現在に至っている。

17年から広報を強化、19年から年5回「町内会だより」を発行している。

3. 主な活動内容

- (1)会議の開催
- ① 原町自主防役員会(4月、1回) 役員39名で、事業計画・担当業務、 要援護者リストの更新などの討議。
- ② 原町防災訓練会議(11月、2回) 役員59名で訓練内容を討議と反省会。
- ③ 町内会拡大役員会議(年、4回) 副会長や各部長(町内会と兼務)が が参加し、町内会事業(自主防含む) を討議する。

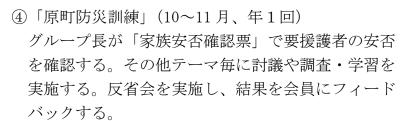


(H22年8月30日、山形放送で活動紹介) (画面はH17・10月原町防災訓練VTR)

(2) 主な活動

①「住民情報(要援護者 105 名リスト)」と「 家族安否確認票(全世帯・全家族名)」の更新活動(4月、年1回)

- ② 役員研修(5月、年1回) 消防署の指導の下、負傷者の応急処置や心肺蘇生法 などを学習する。
- ③「消火栓取扱い講習会」(8月、年1回) 原町消防団と共催。7ヶ所で初期消火訓練を実施。





(H19 防災訓練)



(H22 家族安否確認活動)

- ⑤ 外部活動(講演・放送)など
 - ・21年9月 最上地区防災セミナー「原町自主防災会の活動報告」講演。
 - ・22年8月 山形放送「防災特集」で「原町自主防災会」を取材・放送。
 - ・23年3月10日 村山地区自主防組織連絡会で、活動内容を講演。
 - ・23年6月 天童市自主防災会連絡協議会総会で、4項の内容を講演。 同日 山形放送・ラジオで「原町自主防災会」を電話録音で放送。
 - ・23年11月 干布公民館大会で「東日本大震災を体験して」を講演。

4. 特徴的な取り組み

「3月11日東日本大震災、干布地区自主防災会連絡協議会活動報告」

- (1) 干布地区には、原町自主防災会を含め6自主防災会があり、平成18年 4月に干布地区自主防災会連絡協議会を結成した。 主な活動は次のとおり。
 - ・18年度は、天童市防災訓練の担当地区。
 - ・19年度以降、持ち回りで地区防災訓練を実施。
 - ・20年度以降、地区災害図上訓練を実施。(平成23年1月23日①災害イメージゲーム。②避難所運営ゲームを実施)



(H23・1 災害図上訓練)

- (2) 3月11日大震災、自主防災連絡協議会活動報告。
 - 11 日 14 時 46 分に東日本大震災発災。同時に停電で、停電回復の翌 12 日 20 時頃までの約 30 時間にわたり、防災活動を実施した。
 - ① 市立干布公民館の事務室に「干布地区災害対策本部(本部長以下11名」を設置した。2自主防災会から発電機を持ち込み、1台は公民館事務室の復旧用とし、「防災行政無線」の回線と「テレビ」の情報源を確保した。後の1台を避難所用とし、集会室の灯光器とストーブ用に充てた。



(公民館を復旧した発電機)

② 6 自主防災会で、高齢者の安否と自主避難者の確認を2日に亘り計4度実施した。当夜は市立干布公民館に8名、石倉公民館に20名が避難した。2日目は、干布公民館に19名、石倉公民館に25名が避難したが、20時頃に停電が回復したため全員帰宅した。



(石倉公民館の炊き出し)

③ 干布地区防災デジタル無線局の開局 既成の情報網が途絶えた時に備え、公民館と 6自主防災会を結ぶデジタルトランシーバー の整備を検討していたが、5月に天童市より 整備補助金50万円が交付された。6自主防 災会と市消防第9分団で同額を拠出し、5W 15台のトランシーバーを購入し、6月11日 に開局した。一段と地域防災力が強化された。





(各自主防用) (公民館固定局)

5. 今後の取り組み予定

大震災から「自分で生き残る施策」「向う3軒両隣りの精神」「地域を守る訓練」の教訓を得た。今後、山形県で起きる大地震などの災害に備えて行く。 (1)原町防災訓練の実施。

11月23日(祝水)の午前中、例年どおり①「家族安否確認票」による要援護者確認調査②災害時の行動マニュアルの討議③県自主防リーダー研修報告を実施する。

(2)干布地区災害図上訓練(平成24年1月22日予定)に参加する。

中沢地区自主防災会 (村山市)

1 組織の概要

【所 在 地】

村山市大字櫤山2350-1

【設立年月日】

日昭和51年 4月 1日

【人口/世帯数】

人口 171 人/世帯数 55 世帯

【地域の特色】

当地域は村山市東部の山間部に位置し、地区全体が傾斜地の集落である。過去に大きな災害等に見舞われた例もないが、山形盆地断層帯が当地域の西部に存在し、その発生率が見直され、近い将来大災害が発生する可能性は極めて高くなっている。また、当地域は災害時孤立危険地域でもあり、自助・共助の精神が旺盛で、自主防災意識は非常に高い。

2 設立の経緯

地域の安全・安心を実現するためには、「自分たちの地域は自分たちで守る」の精神のもとに、自主的な防災活動を行うことにより、地区民の地域防災に関する意識の高揚を図るとともに、地震その他の災害等発生時において、会員が自ら行動することにより、被害の軽減を図るため結成された。

3 主な活動内容

大規模災害が発生した場合を想定して、孤立危険地域として予想される情報網の寸断に伴う通信手段の確保・整備、被災者の救出・応急手当、迅速な消火活動を目標に地域を挙げて取り組んでいる。平常時においては、消火器、消火栓、応急手当等の個別の訓練を毎年実施し、併せて地区内の消防施設等の点検を行う等活発な活動をしており、毎年10月の最終日曜日を「防災の日」に定め総合的な防災訓練を実施している。また、婦人部では月2回全戸を回り、「火の用心」を呼びかけして建物火災の防止に努めている。

平素の訓練に加え、毎年10月の最終日曜日を「防災の日」に定め総合的な防災訓練を実施している。また、自主防災会発足以来、婦人部では月2回全戸を回り、「火の用心」を呼びかけ建物火災の防止に努めおり、建物火災は昭和50年に発生して以来35年間発生していない。平成21年5月1日に地区北部に発生した林野火災では、火災発生の知らせを受けた自主防災会がいち早く現場に駆け付け、消火活動を行うとともに、水利不便地域を考慮し、消防署・消防団の車両を最寄りの流水への農道に誘導し、被害を最小限に抑えた事例がある。これは、平常から情報伝達訓練等をしている成果であり、自主防災会としての機能、役割を見事に果たした事例と言える。

5 今後の取り組み予定

山形盆地断層帯に起因する地震災害等(大規模災害)に対応するため、自主 防災会の組織を一層強化するとともに、災害発生時において、孤立危険地域と してさらなる自助・共助・協働による地域住民の安全確保と公助までの応急対 応を行うため「防災訓練の強化」と「災害対応設備等」の充実強化及び、地域 住民の高齢化を鑑み、逃げ遅れによる焼死火災の防止のため、住宅用火災警報 器の全戸設置を目標としている。

柏原区防災会 (東根市)

1 組織の概要

【所 在 地】

東根市柏原一丁目 5-19-2

【設立年月日】

平成 6年 5月 1日

【人口/世帯数】

人口 681人/世帯数 251世帯

【地域の特色】

柏原地区は大富地区の中心部から南東に位置し、地区の北側には山形空港が存している。地区内には大富中学校があり、周囲は住宅街となっている。

2 設立の経緯

住民の隣保共同の精神に基づく自主的な防災活動を行い、地震、火災、 その他の災害により被害の防止及び軽減を図ることを目的とし設立に至っ たもの。

3 主な活動内容

(1) 初期消火訓練の実施

毎年春と秋の2回、消火器及び小型ポンプによる放水訓練を実施している。

(2) 各種講習会の開催

近隣の防災会と共に、消防職員の指導によりAEDを使用した心肺蘇

生法の講習会を実施している。

LPガス協会より講師を招き、 LPガスの取り扱いについての 講習会を実施している。



LPガス協会による講習会

「連携を図った防火防災対策」

柏原地区には非常備の消防団が組織されておらず、地区独自の自衛消防 隊が結成されており、小型ポンプを1台保有している。年2回、自主防災 会と共に消火訓練を実施し機械操作の習熟と活動の連携を図っている。

地区内にある防火水槽、消火栓及び消火器の設置場所の一覧を作成し地区民に配布している。

火災発生時には近隣の消防団と連携を図り活動する取り決めをしている。 平成23年3月11日の東日本大震災時には、防災会長と民生委員で高 齢者世帯、身体障がい者がいる世帯を訪問し安否確認をしている。

5 今後の取り組み予定

- ・自衛消防隊との連携を図った消火訓練や応急手当ての講習を継続して行っていく予定です。
- ・地域住民の震災に対する意識が高まってきており、災害対策等の研修会 を行っていく予定です。

若葉町自主防災会 (尾花沢市)

1 組織の概要

【所 在 地】

尾花沢市若葉町

【設立年月日】

平成15年 4月 1日

【人口/世帯数】

人口 401人/世帯数 126世帯

【地域の特色】

若葉町は尾花沢市の中心部にあり、市の公共施設(市役所、文化体育施設、図書館等)が多い地域である。平成13年頃より開発が進む新興住宅街で、地区民は日中勤めに出ている方が多く、またアパートに住む方も多い地区である。

2 設立の経緯

平成15年に市内の上町地区より独立し、若葉町自主防災会が設立されており、他の地区より新しい自主防災組織である。新興住宅街のため災害履歴はないものの、自主防災会のリーダーが、防災活動に熱心で地区住民の防災意識高揚に努めている。

3 主な活動内容

(1) 防災教室、講演会の開催

毎年1回、市防災担当者や消防署員の講演会を実施しており、また消防署救急隊を講師に招き、AEDを使用した応急手当訓練を実施している。

(2) 初期消火訓練等の実施

尾花沢市総合防災訓練や消防団の火 災防御訓練、初期消火訓練などにも積 極的に参加している。

(3) 住宅用火災警報器の普及活動



初期消火訓練の様子

婦人防火協力班が行っている住宅用火災警報器の共同購入に協力するとともに、取り付け困難な高齢者世帯への取り付け作業を行うなど普及に努めている。

「『自助・共助・公助』による救助救出訓練」

東日本大震災後、行政が一方的に住 民を守るのではなく、地区の住民が「 自分たちのことは自分たちで」守って いくという気持ちが高まってきている。

若葉町自主防災会でも、震災が起きる数年前から「地区民のことは地区民で守る」という気持ちを持って、がれきに人が生き埋めになったという想定で、木材等を積み上げた中から救助を行う訓練に取り組んでいる。



地域住民による救助救出訓練

今後も、この訓練を行うことで地域の連帯感を強めていくとともに、災害へ の備えとして取り組みを強化していきたい。

5 今後の取り組み予定

現在行っている訓練や、教室・講演会などの事業は今後も継続して実施するとともに、今後は「災害時要援護者マップ」の活用を図るなど、地域の実情にあった訓練を行うこととしている。

また、アパート等に住まいの方で、なかなか訓練に参加していただけない方に対しても、積極的な参加を呼びかけ、若葉町地区が一体となって災害対策に取り組んでいくこととしている。

近江地区自主防災会(山辺町)

1 組織の概要

【所 在 地】

山辺町近江地内

【設立年月日】

平成20年4月19日

【人口/世帯数】

人口 1982人/世帯数 653世帯(平成23年8月末)

【地域の特色】

近江地区は、約20年ほど前から入居が始まった山辺町で最も大きく新しい団地である。当地区は、多くの住民が隣接する山形市に通勤している典型的なベッドタウンであり、日中は人口が少なく、高齢化率が高くなっている。また、当地区は、国の直轄一級河川である「須川」に面しており、過去には大規模な水害に見舞われた場所でもある。さらに、山形盆地断層帯による大規模地震発生の確率も高い。

2 設立の経緯

町や、地域住民より、自治会に対し自主防災組織設立の要望が出されたが、役員が一年毎の持ち回りとなっている自治会役員には荷が重かったため、元自治会役員のメンバーを中心に、自治会とは別に、自主防災会が設立された。

3 主な活動内容

(1)会合の開催

月例で部長会議を開催し、防災 訓練、防災器具の整備、防災情報 の整備等の企画を中心に会の運営 を行っている。月例会議とは別に、 地域の消防団、民生委員等の団体 との会議を開催している。

(2)防災訓練の実施

年2回、春と秋の地区内の一斉 清掃と合わせ、初期消火訓練や、 炊き出し訓練、防災用具の操作訓 練等を実施している。



(3)防災セミナーの開催

毎年、テーマを決め有識者を招いた防災セミナーを開催し、地域民の防災意識の向上を図っている。

(4) 自主防災会役員の防災訓練の実施

自主防災会の役員を対象とし、救命ボートによる救助・避難訓練等を実施。

(5) 防災用品の共同購入の実施

住宅用火災警報器や防災ヘルメット、手回し発電ラジオライト等の普及を図るため、共同購入を実施している。

「地域の各団体との連携による防災体制の強化」

・地域内消火設備の維持管理

これまで、消防団と自治会が地域内消火設備の維持管理を実施していたが、消防団の団員不足が問題となり、毎年交代する自治会の役員では、その維持管理が難しく、実質的に放置状態になっていた消火設備を、自主防災会が継続的に維持管理することとなった。

- ・民生委員との連携による災害時要援護者対策 3月11日の震災時には、いち早く避難所を開設し、民生委員と共に、要援護者 宅を巡回し、避難所への避難を支援した。
- ・地元小学校の協力を得ての水防訓練 教命ボートによる避難救助訓練等の水防訓練を実施するに当たり、小学校の協力によりプールを利用して、訓練を実施した。



5 今後の取り組み予定

・防災マップの作成と避難計画の作成等

本格的な防災マップと避難計画を作成する必要がある。そのために、民生委員らとの一層の協力関係を築き、さらに防災NPO法人等の指導も仰ぎながら、作成する予定です。

また、当地区には特別養護老人ホーム、温泉施設、保健福祉施設があり、災害時にはこれらの施設との協力関係が重要になるため、これらの施設との協議を行う必要がある。

土橋地区自主防災会 (中山町)

1 組織の概要

【所 在 地】

中山町大字土橋 94

【設立年月日】

平成 16 年 3 月

【人口/世帯数】

人口 574 人/世帯数 143 世帯

【地域の特色】

土橋地区は中山町の西部に位置し、旧豊田村役場、豊田小学校があるなど、中山町西部に位置する5集落の旧豊田村時代からその中心的役割を担っている。高齢者、特に一人暮らし高齢者は年々増加しているが、小規模集落のため地域一体となった連帯感は強い。

2 設立の経緯

土橋地区は、もともと火災などの災害に対し、地元消防団の協力のもと町内会を挙げて予防及び被災者対策に力を入れていた地区であり、平成 15年に続けて発生した「宮城県沖の地震(中山町震度 5 強)」、「宮城県北部地震(中山町震度 4)」を きっかけとし、更なる地域防災力の向上を目指して町内会を母体とし自主防災会を結成した。

3 主な活動内容

(1) 役員打合せ

町内会役員と自主防災会役員が重複しているため、町内会役員会時に自主防災会の役割確認、防災計画、自主防災訓練内容、次年度計画などについて話し合いを行うとともに、一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯情報の交換・確認を行っている。

(2) 自主防災訓練の実施

年1回(毎年2月)、地元消防団の協力を得ながら、消火器・消火栓による初期消火訓練、炊き出しなどの応急給食訓練を実施している。

(3) 防災教室の開催

消防団の指導の下、負傷者に 対する応急手当やAEDを含む 心肺蘇生法などの研修会を開催 するとともに町防災担当者を講 師として災害・防災の学習会を 実施している。



4 特徴的な取り組み

土橋地区には、社会福祉施設グループホームがあり、災害時には被災した

要援護者の受入協定などを結んでいるが、一方で、施設またはその周辺から出火した場合など地域住民が初期消火活動や施設入居者の避難を支援する仕組みづくりを行い、施設の防災訓練の際、地元消防団員と連携し、消火活動や避難誘導の訓練に一致協力して実施している。



5 災害時の対応

「東北地方太平洋沖地震における災害時要援護者対策」

土橋地区には8名の一人暮らし高齢者がおり、平成23年3月11日は夜になっても停電が続き、地区住民は暖房もない中、余震に怯え、不安な夜を過ごさざるを得なかった。土橋地区自主防災会では、一人で不安を抱えている高齢者を急遽地区公民館に集め、暖を取り、炊き出しを実施し、暖かい食事を提供しながら、翌朝まで役員が交代しながら高齢者を見守り、集まった高齢者もみんながいることで安心した夜を過ごすことができたと感謝されている。

日頃から、役員同士で災害時要援護者の情報交換をし、災害時の学習をしていたことで素早い対応ができた。

5 今後の課題

一人暮らし高齢者などの災害時要援護者の登録が遅れているため、伝聞情報としての名簿だけでなく、より明確な災害時要援護者名簿への登録促進が課題である。

下工北町内会自主防災会(河北町)

1 組織の概要

[所 在 地]

999-3511

山形県西村山郡河北町谷地下工北

[設立年月日]

平成 18 年 4 月 1 日

[人口/世帯数]

人口 430 人/世帯数 132 世帯 (男 219 人、女 211 人)

「地域の特色]

当地区は「雛とべに花の里」と知られている河北町の中心地で、谷地の北部に位置し、東には山形県の母なる川最上川、西には万年雪を抱く霊峰月山や葉山、南には樹氷で有名な蔵王を遠くに望み、自然豊かな田園風景に囲まれた地域である。また町内会の事業には、一戸から一人を合言葉に、組織の代表、隣組長が主体となって取り組み、こどもから高齢者まで参画するため、事業は常に盛会に開催され、それが地域住民を把握できる絶好の機会にもなっている。だからこそ顔の見えるコミュニケーションと絆で、地域の活性化が図られている。

しかし、65歳以上の高齢者は106人(男 51人、女 55人)で、高齢化率24.6%と割合が高くなっており、見守りが必要な一人暮らしの高齢者が、年々増えていることがよくわかる。さらに進む高齢化社会で、地域住民が安全で安心して暮らせる地域づくりと、地域自主防災組織がうまく機能するために模索しているところである。

2 設立の経緯

河北町においても山形盆地断層帯が走っており、今後30年以内にマグニチュード7.8程度の大地震が発生されるといわれている。「自分の身は自分で守る」ことは基本ですが、実際の災害を前にした時は、個々人の対応には限界があり地域における助け合いが非常に重要になってくる。また災害が発生したときは「地域ぐるみの協力体制」の構築が今こそ急務と思う。

そのためには、普段から「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識、また地域の 人々が自発的に防災活動を行うことの重要性を認識し率先、垂範行動する。それには平常 時と災害時に対応した組織的活動が必要であり「安全で安心して生活できる」「住みよい地 域づくり」を目的に自主防災会の設立に至った。

3 主な活動内容

1・自主防災に関するアンケート調査依頼全戸配布・・・・・・・・・

写真1

2・ 緊急時に備えた「わが家の防災メモ」と「災害時要援護者名簿」全戸配布・・・・

3・ わが家わがまちの防災(向こう三軒両隣読本)備えのガイド&チエック全戸配布

- 4・「住宅火災用警報器」の全戸設置を目指して共同購入と設置・・・・・ 写真3
- 5・防災用具の点検・活動
- 6・地域内の消火栓・水利・消火用具点検 (年1回)・・・・・・ 写真4
- 7・初期消火訓練 (年1回)・・・・・・ 写真5
- 8・ 西村山広域消防署による防災講話の開催 (年1回)
- 9・ 東日本大震災に係る町内会対応調査

「日頃の地区活動こそが自主防災活動の基本」

日頃の地域活動こそが自主防災活動の基本であるため、自主防災活動は最も身近な地域づくりである。普段からのコミュニケーションや地域の絆を強めることで、防災組織役員の指揮命令がなくとも、災害時の緊急度に応じた、臨機応変で適時の対応こそが、命を救うための初期行為である。

「活動事例と成果」

1. 活動事例

- 1・ 組織を挙げ町内総出による花の植裁(フラワーロード活動)
- 2・農村の動脈である農業用水路・地域用水路の施設点検・補修活動
- 3・ 民生委員との連携による避難所までの危険物・危険箇所の確認、点検
- 4・「わが家の防災メモ」と「要援護者名簿」の全戸配布・作成
- 5・ 町内総出による輪投げ大会等の開催で絆の再構築

写真6

- 6・ 他地区(畑中)との炊き出し訓練(年1回)
- 7・ 側溝清掃活動(優先順位を決め年1回)

2. 成果

河北町では平成20年12月、75歳以上の一人暮らしの高齢者に、無償で火災警報装置の設置をすることになり、当地区では区長、民生委員、自衛消防(青年会)との連携で設置した。青年会からは特に、地域の福祉に対する協力と得られた。

当初は、「個人情報保護法」を持ち出し、防災活動に必要な「個人情報」の提供拒否が、 日頃の地区活動強化で、防災活動に要する情報の提供・共有化されたことは自主防災に関 する一番大きな成果である。

毎年、自主防災に関するアンケート調査依頼用紙を全戸配布し、全戸から提出をいただいている。このことは、地域住民の家族構成等の把握する中で支援が必要な障害者、一人暮らしの高齢者、災害時要援護者等の把握は、災害時等の緊急時に必要不可欠な情報収集であり、自主防災活動に効果的に活用している。

5 今後の取り組み予定

未曾有の東日本大震災が発生、また新潟、福島の豪雨、近畿地方を襲った台風 12 号

による洪水被害など連続して非常災害が発生した。やはり、災害は平常時の準備が大事であることが立証された。今後の取り組みとして

- 1・きめ細かな防災活動をするには区長、民生委員、自主防災組織と情報の共有化と連携 強化を図る。
- 2・ 今こそ大規模な災害を想定した、総合防災訓練を繰り返し、繰り返し、実施することが急務である。
- 3・環境防災課、健康福祉課で把握している災害時要援護者等の情報は共有化し、町内会、民生委員、自主防災組織にも共有化される体制と、連携強化の推進を図る。
- 4・ 河北町で作成したハザードマップに、町内会で収集した災害時要援護者の情報を重ね合わせて、避難支援訓練を実施する。



写真1 自主防災に関するアンケート



写真2「わが家の防災メモ」



写真3 住警器の全戸設置を目指す!



写真5 初期消火訓練の様子



写真4 消火栓点検の様子



写真6 輪投げ大会等の開催で絆の再構築